

華 遇 記

池坊短期大学准教授
華道家元池坊 特別囑託講師

藤井 真

「遇」～桜～



新型コロナウイルスでステイホームが叫ばれる中、注目されたのがゲーディングではないでしょうか。私もその一人で、家族以外で向き合うのがテレビやパソコン、スマートフォンなど無機質なもののばかりで、何となく心が晴れない日が続いていました。いのちある草木と触れ合い、少しずつ生長する姿を家族で世話をする事で、今までなかった親子の会話が自然と増え、お花が咲いた時には、雨露風雪に耐えながらも可憐に咲く花に元気をもらいました。

今回の作品テーマは「輝かしい未来へ」。桜が咲く頃は新たな目標に向かってスタートする季節。四月といえば桜、花といえば桜というように、日本の美を象徴し、国花でもある桜は日本人にとって特別なお花です。桜の美しさは満開の桜だけでなく、開花し、散るまでの一瞬(刹那)のいのちの輝きが

人の一生と重なるところに、桜の美しさや魅力を感じるのかもしれない。

これから歩む「道」として花器を縦に用い、美しい花が咲いてほしい、という想いをあえて蕾のある桜で構成しました。いけばなでは蕾を客位(お客さまの方向)に向けたり、時に満開のお花よりも、蕾に感動や美を見出すことがあります。明日に美しく咲く可能性をほらみながら新しさ、若さを尊重し、未来へ期待する思いを託すためです。

立ち伸びるオキナワシヤガの葉は、目標に向かって進んでいく気持ちを。時にはくじけたり、立ち止まったりすることもあってしょう。そんな時、一番奥のラッパ水仙が「道しるべ」となり、「こっちだよ」と希望の光を照らしてくれるでしょう。さあ、輝かしい未来への第一歩を共に歩んでまいりましょう。

(大分・正善寺衆徒)

自由花

桜 スイートピー ホワイトスター
オキナワシヤガ ラッパ水仙